

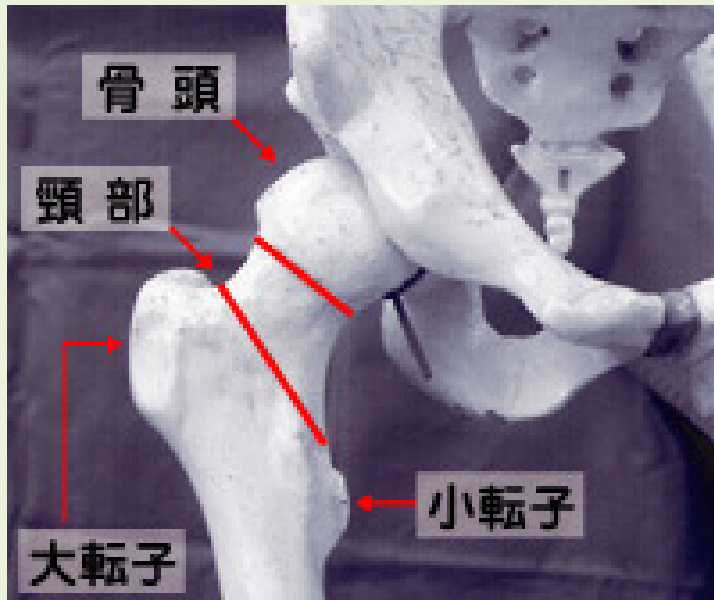
股関節大腿近位骨折



松阪市マスコットキャラクター
「ちゅちゅも」

作成：医事課

<病気について>



こ かんせつだいたいきん い こっせつ
股関節大腿近位骨折とは、股関節（脚の付け根の部分）の中で大腿骨の頸部の部分から下方にかけての骨折のことです。骨粗鬆症が基盤にある高齢者では頻度が高い骨折のひとつで、高齢化社会を迎えて増加してきています。多くは転倒して臀部を打撲して骨折しますが、こつそしょうしょう骨粗鬆症のひどい人はケガが

なくても徐々に骨折することがあります。（だいたいこつけいぶぜいじゃくせい大腿骨頸部脆弱性

こっせつ骨折）。一方、若い人では交通事故や高所からの転落などの強い外力によって起こります。大腿骨頸部骨折には、こつとう骨頭に近いところで折れる内側骨折（ないそくこっせつ股関節内での骨折）と、遠いところでの外側骨折（がいそくこっせつ股関節外での骨折）に分けられます。内側骨折と外側骨折では、治療法や合併症などが異なります。

<症状>

高齢者が転倒して立ち上がれなくなった時には、まず、この骨折が考えられます。骨折した足は短くなり、外側に開いたような形をとります。自分で足を動かすことはできず、他人が動かすと強く痛がります。外側骨折では関節外の骨折であることより、臀部の外側中心に、出血や腫れが徐々に出現してきます。

しかし、時には骨折が軽度で、骨折した部分がお互いに噛み合って安定した形となり、歩行ができる人もいます。

<検査>

レントゲン検査

股関節の2方向のX線写真をとると、骨折の形と部位が明らかになります。骨折の詳細を評価するため、CTを行う場合もあります。

MRI 検査

骨粗鬆症のひどい人の骨折（脆弱性骨折^{ぜいじゃくせいこっせつ}）では、X線では最初のころはわからないことが多く、症状から骨折が疑われる時にはMRI検査が必要となります。

<治療>

この骨折に保存的治療（手術以外の治療）を行うと、長時間の寝たきりの状態を強いることになり、高齢者ではいろいろな合併症を引き起こします。そのため、**原則として手術を行い、早くから歩くリハビリ訓練を指導します。**しかし、全身状態が悪く手術が無理な時や骨粗鬆症のひどい人の骨折（脆弱性骨折）などでは、体重をかけずに安静にして治療することもあります。**手術の方法として、内側骨折**では、ずれがわずかであれば、元に戻してネジ数本で固定します。しかし、ずれがひどい時には骨折した部分を取り除き、金属製の人工の骨頭に入れ替えます。**外側骨折**では、ずれをもどしてプレートとネジを使用する場合と骨髄内に太い釘を入れてネジで補強する方法で骨接合を行います。

<入院費～概算～>

1割・2割負担の場合	44,400円（上限）
3割負担の場合	660,000円 前後

※食事代金、個室代金は含まれていません。

※高額医療の方は、申請により限度額認定証が交付されますので、詳細は医事課まで御連絡下さい。

<平成28年度当院データ>

- ・股関節大腿近位骨折で入院した患者数 153件
- ・平均入院日数 22.5日

※パンフレットに関するご不明な点等ございましたら、
医事課までお気軽にお尋ね下さい。